

トラック輸送情報（平成21年11月分）

平成22年2月26日

国土交通省 総合政策局 情報政策本部 情報安全・調査課 交通統計室

担当：桑原、久島、菊池 内線28722

直通：03-5253-8346

ホームページ：<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の概況

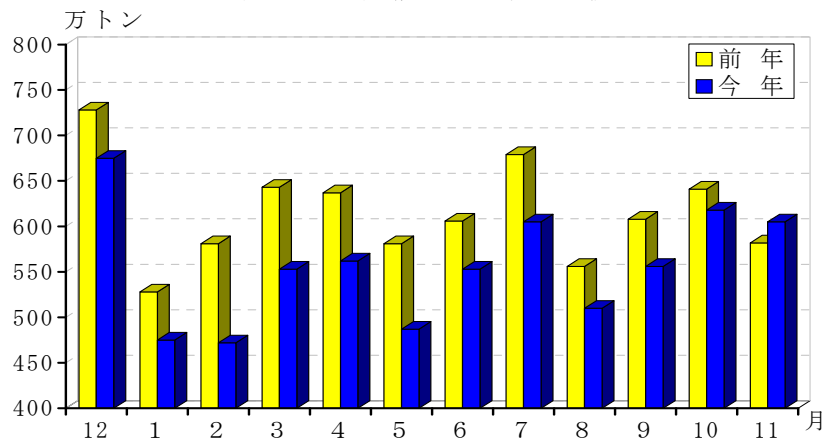
調査対象27社の本月の輸送量は、6,050,900トンで、前月と比べ総輸送量が約13万トン減少したため、前月比97.9%（季節調整済み100.3%）となり、前年同月との比較では、約23万トン増加したため、前年同月比104.0%の実績であった。

なお、平均稼働日数は22.9日で、前月と比べ2.2日減少し、前年同月と比べ0.4日の増加であった。稼働1日当たりの輸送量は、264,745トンで、前月と比べ約1万9千トン増加したため、前月比107.5%となり、前年同月との比較では、約6千トン増加したため、前年同月比102.4%の実績であった。

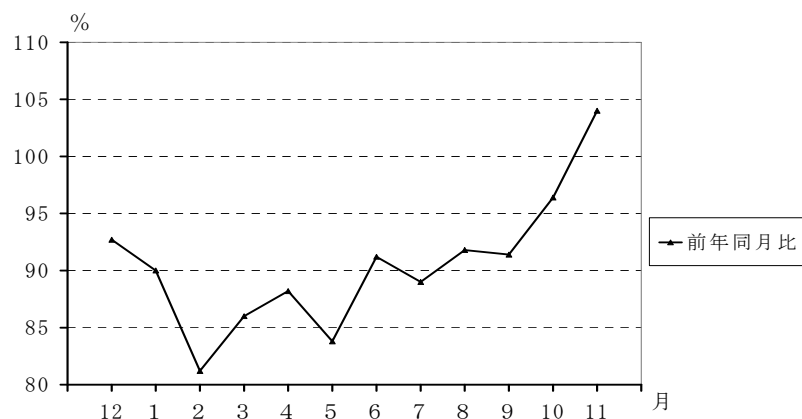
(図1-1、図1-2参照)

注) 平成21年4月から貨物輸送の調査対象については、1社増え、27社となった。

(図1-1) 輸送トン数の推移



(図1-2) 輸送トン数の前年同月比



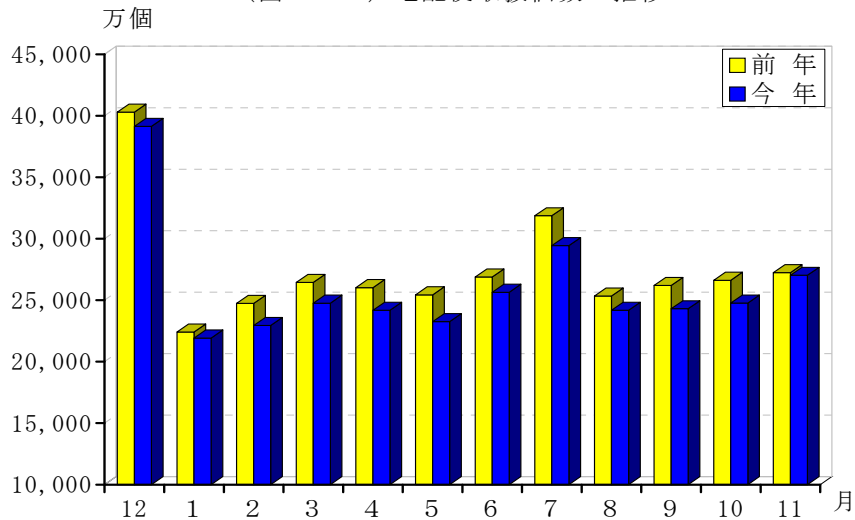
(2) 宅配便の概況

調査対象 19 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、270,246 千個で、前月と比べ 約 2,261 万個増加したため、前月比 109.1% (季節調整済み 104.0%) となり、前年同月との比較では、約 220 万個減少したため、前年同月比 99.2%の実績であった。

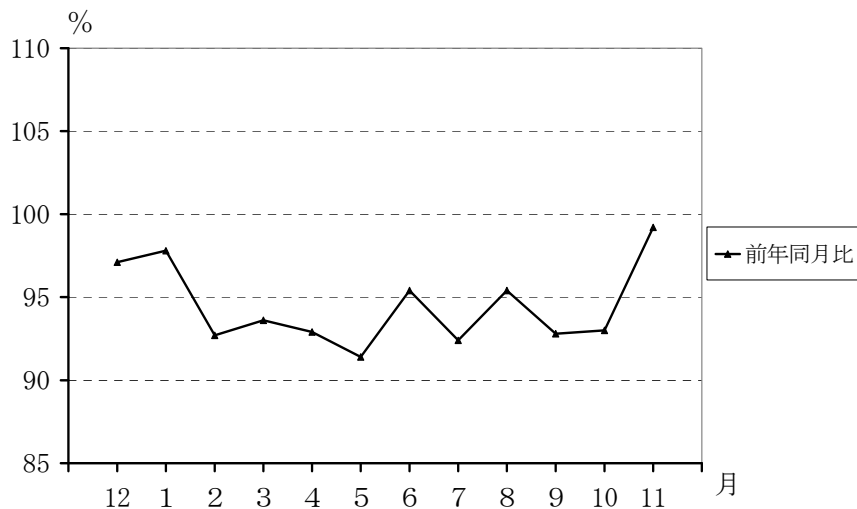
(図 2-1、図 2-2 参照)

注) 平成 21 年 4 月から宅配便輸送の調査対象については、1 社減り、19 社となった。

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 調査対象 27 社の品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、平均稼働日数が減少したこと等により、輸送量が減少した。減少要因としては、工場・生産地からの貨物減がいくつかの品目に共通してみられたほか、「化学工業品」、「日用品」では倉庫から出る貨物減等も要因となっている。地域的には、「日用品」が全国的に減少したほか、「農水産品」が東北、関東で、「化学工業品」、「繊維工業品」が関東、北陸信越、中部地方、大阪、兵庫等で減少している。

前年同月と比べると、工場・生産地や倉庫からの貨物増等により、「化学工業品」、「食料工業品」等で輸送量の増加が見られたものの、不況に伴う工場・生産地や倉庫からの貨物減等により、「金属製品」、「機械」、「繊維工業品」、「日用品」等で輸送量が減少している。地域的には、「食料工業品」が中部、大阪、近畿、福岡で増加が見られたものの、「金属製品」、「機械」、「繊維工業品」、「日用品」が東北、東京、関東、北陸信越、近畿等で減少したほか、「農水産品」が東北、東京、関東で、「その他 (宅配便、百貨店配送品)」が神奈川、関東で減少している。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 27社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因		
	著 増	増	変 らず	減 減					
前 月 に 比 べ て	農水産品	1	2	11	4	九州 青果物	東北、関東		
	金属製品		1	15	5		4		
	機 械		2	16	2	1		4	
	化学工業品		1	12	9		合成樹脂	神奈川、関東、北陸信越、中部地方、大阪、兵庫、中国	4, 7
	繊維工業品		1	16	5			関東地方、北陸信越、中部地方、大阪、兵庫	4
	食料工業品		3	14	3		その他の食料工業品	関東	7
	日 用 品	1	1	10	10		書籍・印刷物、身廻品、その他の日用品	北海道、東北、関東地方、北陸信越、中部地方、兵庫、近畿、九州、全国	4, 5, 7, 8
	そ の 他	2	3	11	4	1	宅配便、百貨店配送品	神奈川、関東、全国	8
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品	1	1	10	6	青果物	東北、東京、関東	4	
	金属製品		3	11	7			東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 7, 9
	機 械	1	1	12	6	1	機械部品 電気機械	東北、東京、関東、北陸信越、中部、大阪、近畿	4, 7, 9
	化学工業品	1	3	11	6	1	合成樹脂		7
	繊維工業品			14	6	2	織物	東北、関東地方、北陸信越、中部地方、大阪、近畿、中国	4, 7, 9
	食料工業品	1	3	10	6		飲料	中部、大阪、近畿、福岡	4
	日 用 品		5	4	12	1	書籍・印刷物、衣服、身廻品	北海道、東北、東京、神奈川、北陸信越、愛知、近畿	4, 5, 9
	そ の 他		1	9	6	4	宅配便、百貨店配送品	神奈川、関東	2, 9

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市県(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市県を含む場合はそれらをのぞく府県、九州(沖縄を含む))]単位である。なお、地方運輸局に6大都市県を含む場合は「～地方」と表記した。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 770 社／調査対象事業者数 1,092 社）の輸送量は、前月比 97.2%、前年同月比 98.3%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北陸信越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前 月 比	97.2%	95.2%	96.3%	95.9%	100.4%	101.0%	101.2%	95.5%	99.0%	98.2%	85.6%
前年同月比	98.3%	102.3%	94.7%	97.6%	95.4%	95.6%	99.0%	97.9%	102.3%	98.9%	85.0%

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	本月の輸送は、対前月比 95.2%、対前年同月比 102.3%であった。品目別には、建設関連の需要増等により「砂利・砂・石材」等の輸送量が増加したほか、季節的需要増等により「その他の石油製品」等の輸送量が増加している。一方、天候の影響等により「その他の農産品」の輸送量が減少したほか、季節的需要減等により「野菜・果物」、「水産品」、「動植物性飼・肥料」等の輸送量が減少している。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。
東北	本月の輸送は、対前月比 96.3%、対前年同月比 94.7%であった。品目別には、季節的需要増等により「その他の石油製品」、「その他の製造工業品」等の輸送量が増加した。一方、季節的需要減等により「穀物」、「野菜・果物」、「食料工業品」の輸送量が減少したほか、不況の影響等により「畜産品」、「工業用非金属鉱物」、「金属製品」等の輸送量が減少している。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。
関東	本月の輸送は、対前月比 95.9%、対前年同月比は 97.6%であった。品目別には、デパート・スーパーの貨物増により「野菜・果物」の輸送量が増加したほか、季節的需要増等により「その他の石油製品」等の輸送量が増加している。一方、季節的需要減等により「動植物性飼・肥料」等の輸送量が減少したほか、不況の影響により「機械」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。
北陸信越	本月の輸送は、対前月比 100.4%、対前年同月比は 95.4%であった。品目別には、建設関連の需要増等により「木材」等の輸送量が増加したほか、季節的需要増等により「揮発油」、「その他の石油製品」等の輸送量が増加している。一方、工場・生産地からの貨物減により「鉄鋼」、「紙・パルプ」等の輸送量が減少したほか、季節的需要減等により「穀物」等の輸送量が減少している。今後の輸送見通しは、次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向と予想される。
中部	本月の輸送は、対前月比 101.0%、対前年同月比は 95.6%であった。品目別には、季節的需要増により「工業用非金属鉱物」の輸送量が増加した。一方、建設関連の需要減により「その他の製造工業品」の輸送量が減少したほか、不況の影響により「機械」等の輸送量が減少している。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。
近畿	本月の輸送は、対前月比 101.2%、対前年同月比は 99.0%であった。品目別には、デパート・スーパーの貨物増等により「食料工業品」の輸送量が増加した。一方、不況の影響等により「金属製品」、「機械」、「紙・パルプ」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向と予想される。
中国	本月の輸送は、対前月比 95.5%、対前年同月比は 97.9%であった。品目別には、建設関連の需要増により「砂利・砂・石材」等の輸送量が増加した。一方、工場・生産地からの貨物減等により「機械」、「食料工業品」等の輸送量が減少したほか、季節的需要減等により「その他の農産品」等の輸送量が減少している。今後の輸送見通しは、次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向と予想される。
四国	本月の輸送は、対前月比 99.0%、対前年同月比は 102.3%であった。品目別には、季節的需要増により「野菜・果物」、「その他の農産品」の輸送量が増加した。一方、季節的需要減により「鉄鋼」、「輸送用容器」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向と予想される。
九州	本月の輸送は、対前月比 98.2%、対前年同月比は 98.9%であった。品目別には、建設関連の需要増等により「砂利・砂・石材」、「機械」等の輸送量が増加したほか、季節的需要増等により「野菜・果物」等の輸送量が増加している。一方、不況の影響等により「セメント」、「その他の製造工業品」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月は増加傾向、以降は減少傾向と予想される。
沖縄	本月の輸送は、対前月比 85.6%、対前年同月比は 85.0%であった。品目別には、建設関連の需要増により「金属製品」の輸送量が増加したほか、季節的需要増により「穀物」の輸送量が増加している。一方、商社・問屋からの貨物減により「食料工業品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。

(3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局	北海道	東北	関東	北信	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		増	減	増	減	増	減	増	減	増	減	増	減
1. 穀物	増	1									1	1	3
	減	2	6		3						1		12
2. 野菜・果物	増	2	1	1					2	2	2		10
	減	4	2					1	1		3	1	12
3. その他の農産品	増	4			1					2	1	1	9
	減	7		1					2		2		12
4. 畜産品	増								1				1
	減	1	1								1		3
5. 水産品	増		1		1		1				1		4
	減	3			1					1			5
6. 木材	増	2	1		3				1			1	8
	減	3	1		1				1		1	1	8
7. 薪炭	増												
	減												
8. 石炭	増	1											1
	減	1											1
9. 金属鉱物	増								1				1
	減									1			1
10. 砂利・砂・石材	増	7	2		1	1			2		3		16
	減	5	1			1					1		8
11. 工業用非金属鉱物	増				1	1							2
	減		2					1			1		4
12. 鉄鋼	増	1						1	1		1		4
	減	1	1	1	4			1		1			9
13. 非鉄金属	増		1						2				3
	減												
14. 金属製品	増	1			1		1	1	1		1	1	6
	減	1	2					2					5
15. 機械	増	1			2	1	1	2	2	1	4		12
	減			1	5	2	3	5	1	3			20
16. セメント	増	2			1				3		2		8
	減	6	1		1						2		10
17. その他の窯業品	増	1	1			1							3
	減				1				1				2

品目	運輸局	北海道	東北	関東	北信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
18. 揮発油	増		3		2					1		6
	減	1				1						2
19. その他の石油製品	増	4	1	1	3					1		10
	減				1	1		1		1		4
20. コークス・ その他の石炭製品	増	1										1
	減											
21. 化学薬品	増											
	減						1	1		1		3
22. 化学肥料	増		1		4							5
	減							2		1		3
23. その他の化学工業品	増		1	1		1	1	1		1		6
	減	1	1					3				5
24. 紙・パルプ	増	1	1			1		1		3	1	8
	減	1	1		2		2	1	1			8
25. 繊維工業品	増				1				1	1		3
	減							1		1		2
26. 食料工業品	増		1		1		3	3	1	3		12
	減	2	3		2		3	9		3	1	23
27. 日用品	増		1				1	1				3
	減	1			1		1	1		1		5
28. その他の製造工業品	増		2	1		1				3		7
	減				1	2		2		4		9
29. 金属くず	増										1	1
	減											
30. その他のくずもの	増											
	減											
31. 動植物性飼・肥料	増	2	1							2		5
	減	3	1	2						1		7
32. 廃棄物	増	2					1		1			4
	減				1			1				2
33. 輸送用容器	増				1							1
	減								1			1
34. 取り合せ品	増	1						1		2		4
	減		1		1	1		1		2	1	7
35. その他	増			3	1		3	1			1	9
	減		1	1	2	1		3	1	1		10